

# 令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	住吉区
学 校 名	大阪市立南住吉小学校
学校長名	小西 正晃

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・南住吉小学校では、第6学年 134名

## 令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

教科に関する調査では、国語科では平均正答率は昨年と同様全国平均・大阪市平均を下回るもののその差は縮小している。特に「話すこと・聞くこと」の領域においては、全国平均・大阪市平均ともに上回る結果となった。他の領域においても正答率では各平均と並ぶ水準となった。算数科では、今年度も平均と比べて約7ポイント下回る結果となった。領域別の正答率をみると、特に苦手な領域があるわけではないように感じられる。理科では、平均正答率は、あまり高くはないが、領域別の正答率は全国・大阪市と似た傾向を示している。また、平均無回答率に関しては、どの教科も例年より高い傾向を示した。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕領域別にみると各教科でも取り組んでいる「話すこと・聞くこと」の領域では、前述のように全国・大阪市平均を上回る結果となり、「書くこと」や「読むこと」の領域においても差は縮小してきている。今後、「書く」力をつけるためには作文指導や日記指導、「読む」力をつけるためには教科書を中心とした丁寧な学習指導や読書に対する興味関心を高める読書指導などを継続していく。

〔算数〕今年度はどの領域においても全国・大阪市平均を下回る結果となった。これについては、朝学習や習熟度別少人数指導だけでなく、デジタルドリル等の効果的な活用を図り、より個に応じた学習を重ねる必要がある。

〔理科〕結果の概要でも示した通り、特に苦手な分野があるわけではないが、A区分に低い傾向がみられる。今後は、学習内容の定着を図るために、予想・実験（観察）・結果・考察という流れを再確認し、結果からの考察に十分な時間をとるようにしていきたい。

質問紙調査より

各家庭の協力があり、朝食を毎日食べる児童は初めて95%を超えた。自尊感情や自己肯定感はずやや低い傾向を示すが、自己の将来像や規範意識に関しては全国平均と並ぶ結果となっている。今後も積極的に承認することを継続し、一人一人の自尊感情や自己肯定感の向上を図る。

家庭学習については、計画性に乏しく時間も短い傾向にある。学校では、保護者に対し「家庭学習の手引」を配布し、学年だよりなどで啓発を継続しているが、十分な成果にはつながっていない。今後も、協力を求めていく。

読書に関しては「本を読むことが好き」と肯定的に答える児童は80%近いものの、家庭での読書時間は短い傾向が続く。今後も、学校図書館主任や主幹学校司書・ボランティアとの連携を継続し「読み聞かせ」や「ブックトーク」の実施など、本に親しむ機会を確保するとともに、調べ学習や読みたい本の相談などの要求に応じたレファレンス業務も積極的に展開していく。

## 今後の取組(アクションプラン)

国語科・算数科ともに正答率が徐々にではあるが向上してきていることから、今後も継続した取り組みにより基礎・基本が定着するよう指導・支援を行う。特に、データ配信教材の活用、「waku×2.com-bee」を活用した授業改善を行う。また、学習内容の習熟や定着、家庭学習での個別支援として、デジタルドリルの有効な活用を図ることで、弱点の克服や個に応じた支援のみならず、発展問題への取り組みもできるようにする。

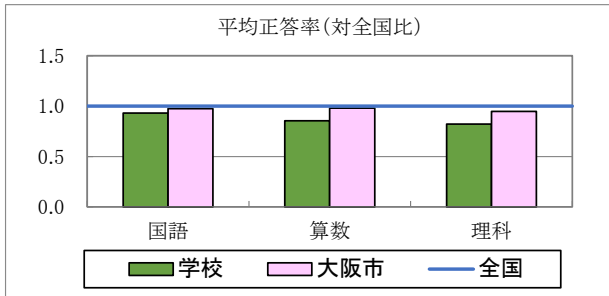
自尊感情や自己肯定感を向上させるために、学習面だけでなく生活面でもより細やかな観察を行い積極的に承認するよう心がける。また、スクールライフノートも活用し、学校全体で子どもたちを見守り、支援できるようにしていく。

読書については、家庭学習の一部として取り組むなどし、家庭での読書習慣の醸成を図る。

# 【 全体の概要 】

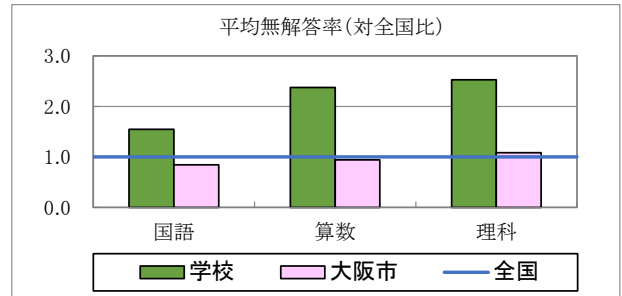
## 平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	61.0	54.0	52.0
大阪市	64.0	62.0	60.0
全国	65.6	63.2	63.3



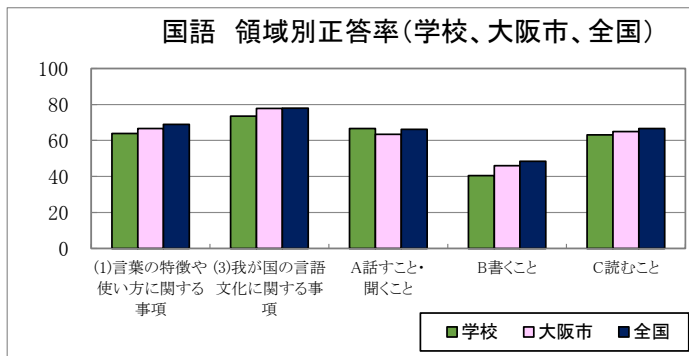
## 平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	8.8	8.3	9.1
大阪市	4.8	3.3	3.9
全国	5.7	3.5	3.6



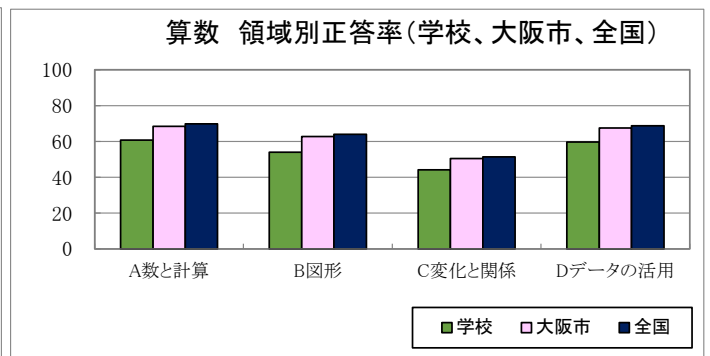
## 【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使 い方に関する事項	5	63.9	66.7	69.0
(2)情報の扱い方に 関する事項	0			
(3)我が国の言語 文化に関する事項	1	73.5	77.8	77.9
A 話すこと・聞くこと	2	66.7	63.4	66.2
B 書くこと	2	40.5	46.0	48.5
C 読むこと	4	63.1	65.0	66.6

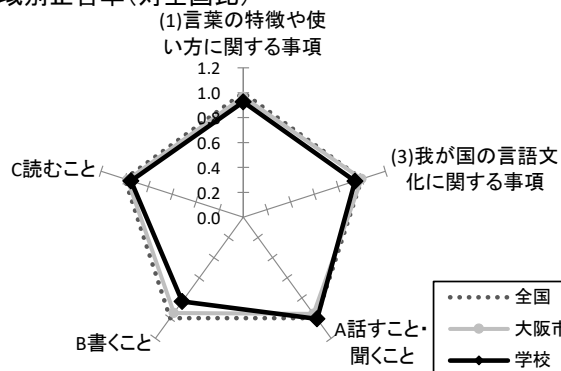


## 【 算 数 】

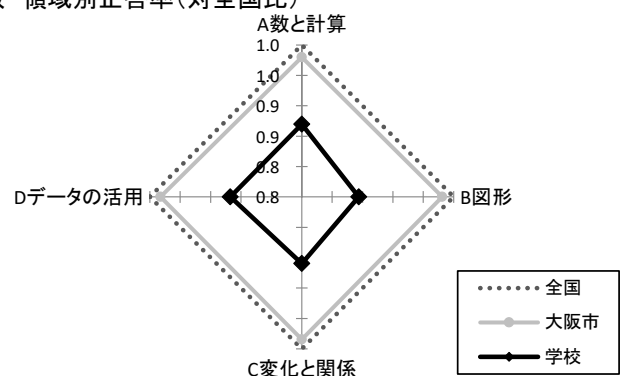
学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	60.7	68.4	69.8
B 図形	4	54.0	62.8	64.0
C 測定	0			
C 変化と関係	4	44.1	50.5	51.3
D データの活用	3	59.6	67.5	68.7



### 国語 領域別正答率(対全国比)

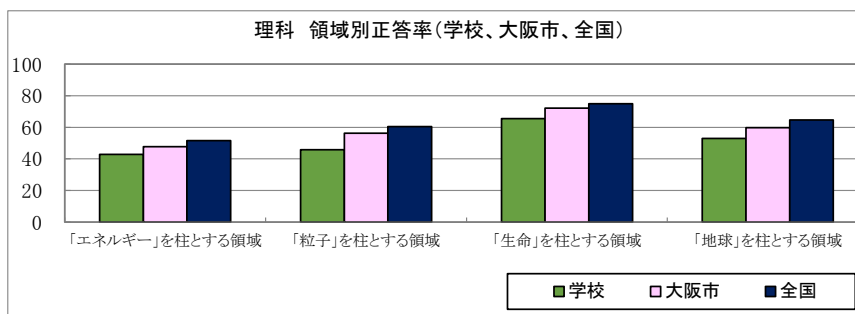


### 算数 領域別正答率(対全国比)

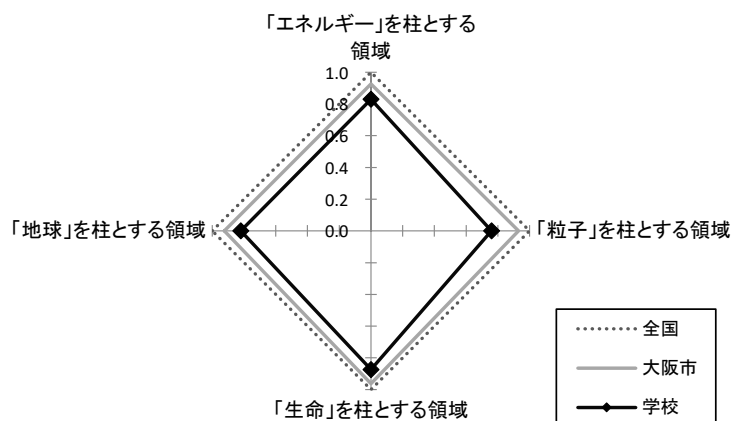


## 【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	42.8	47.8	51.6
	「粒子」を 柱とする領域	45.9	56.2	60.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	65.5	72.2	75.0
	「地球」を 柱とする領域	53.0	59.7	64.6



理科 領域別正答率(対全国比)



# 児童質問紙より

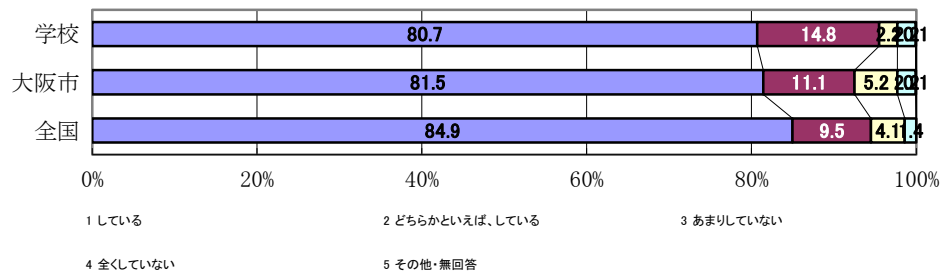
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

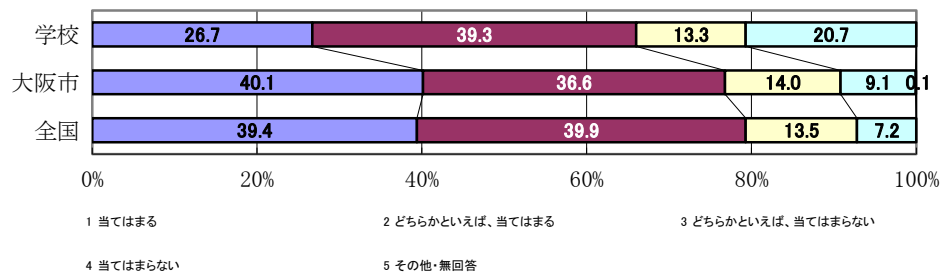
1

朝食を毎日食べていますか



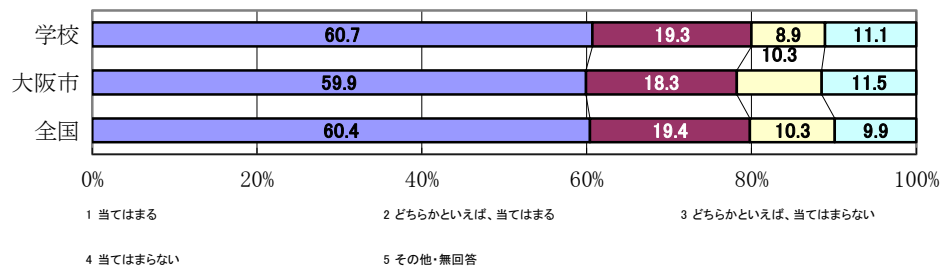
7

自分には、よいところがあると思いますか



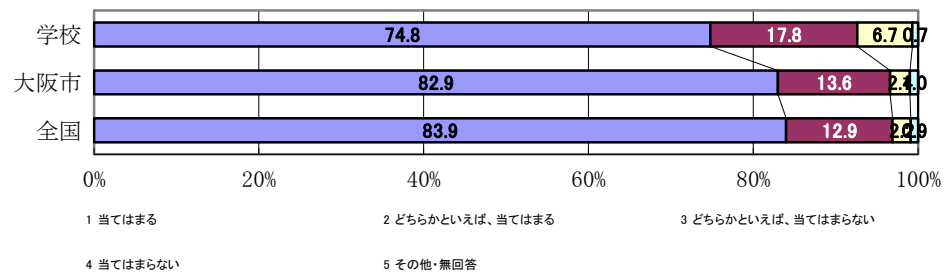
9

将来の夢や目標を持っていますか



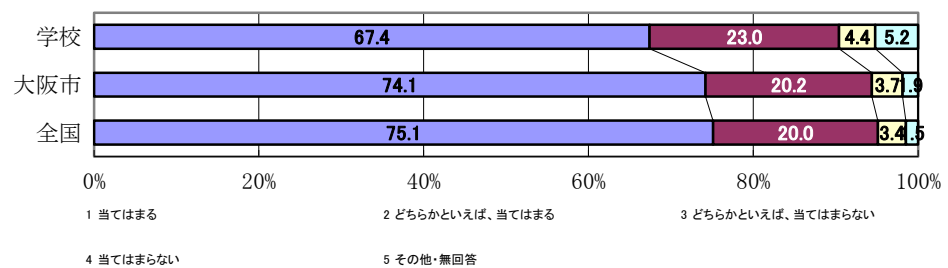
13

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



15

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



# 学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

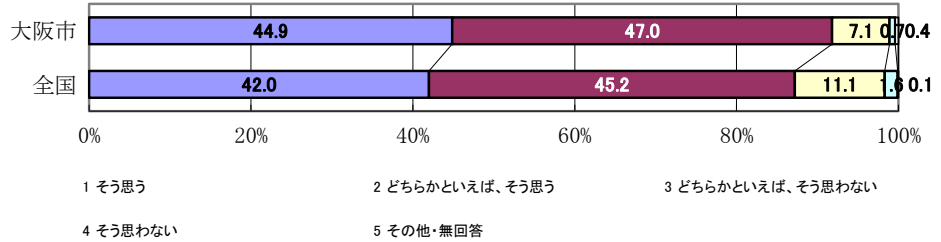
質問番号

質問事項

7

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

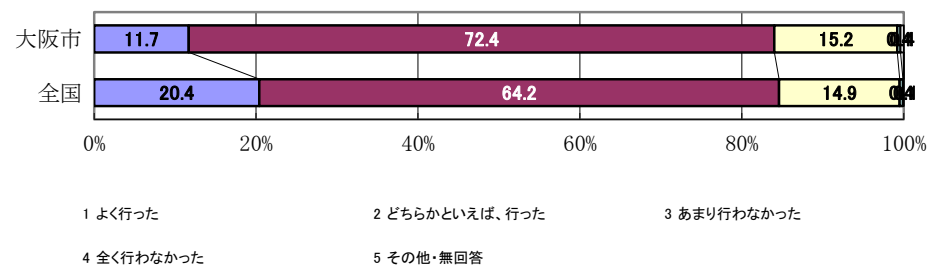
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



8

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

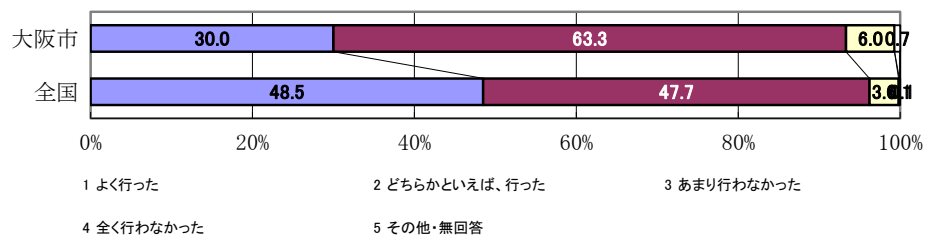
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



9

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか

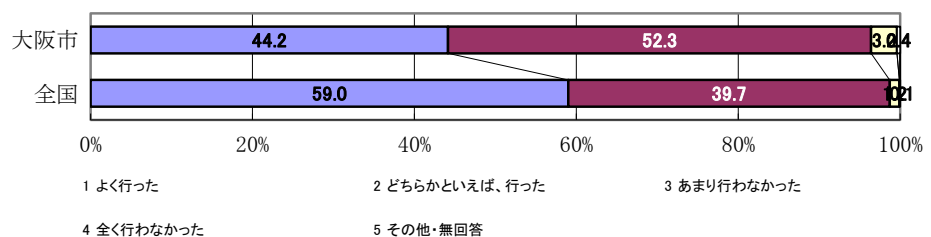
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



10

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行いましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



13

前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか

学校 「月に数回程度行った」を選択

